



子どもとメディア 北海道

子どもとメディア 北海道

第11号

2013年
1月発行

「子どもとメディア北海道」の会員さんに、学ぼう!

～日頃、スクールカウンセラーとして、児童生徒・親に関わる中で気づく電子映像メディアのリスク～

～メディアの問題～

この文はウェブマガジンとして、どなたでもご覧になれる「対人援助学マガジン」に掲載されたものから転載しております。ご興味のある方はネットで「対人援助学マガジン」で検索してみてください。「我流子育て支援論」というタイトルで書いております。11号まで発刊されておりますし、様々なジャンルの方が書かれていますのでとても面白い読み物になっております。お楽しみください。(河岸)

河岸由里子（臨床心理士）さん

かうんせりんぐるうむ かかし 主宰

千歳市教育委員会スクールカウンセラー

石狩市こども相談センター臨床心理士及び家庭
児童相談員アドバイザー

北海道立高等学校スクールカウンセラー 他

昨年の全道のスクールカウンセラー研修会に続き、1月に千歳市の「かうんせりんぐるうむかかし」主催で、中谷を呼んで講演会を開催してくれました。そのつながりで、今回の掲載が実現できました。(中谷)

小学生では多くの子がニンテンドーDS や PSP を持ち歩き、公園などで通信しながら遊んでいるし、中高生では、携帯電話、PSP やパソコンのネットゲームにはまり、夜中ずっとゲームをしていて、朝起きられず、不登校になっているケースも多い。

筆者もゲームをするので、ゲームの楽しさはわかる。一度始めたら、あっという間に時間が経つ。そのくらい、のめりこみやすく、興味を引き付けるように作られている。大人でも問題になるくらいのもものだから、自分自身のコントロールも未熟な子ども達が、面白いゲームを短い時間で切り上げられるはずもない。如何にゲームをさせないようにするか、ゲームとの戦いはそれこそ大変である。

保護者にネット環境を切って欲しいと頼んでも、中々すんなりとはいかない。大抵は「そんなことをしたら可哀そう」とか、大きい子では「暴れるから」と抵抗される。そこは、じっくりと、長い目でみて考えてもらえるよう、説得を続ける。

小さい子では、ゲーム機本体を隠したところ、見つけれられたと言う話も聞く。家の中に隠しても、大抵は見つけれられてしまうものだ。また、ゲーム機を母親が持って出たら、子どもがパジャマのまま裸足で追いかけてきたとの話もあった。ゲーム機を持っていかれることにそれ程の抵抗を見せるとしたら、依存の状態と言える。

中学生以降では、パソコンのコネクションコードやモデム本体などを持って行ってもらうが、お金を持っていると新しいものを買ってきてしまうので、インターネットの契約自体を切ってもらふ事もある。

「暴れるから」と言われると、支援者としても中々お願いし辛い、「殴ってくるなら警察を呼ぶ」くらいの勢いが必要である。保護者が覚悟を決めねばならない程の問題なのである。こうした努力の結果、ゲームやパソコンが無くて平気になって、目つきも態度も随分と穏やかになった子を何人も見てきた。

ゲームやパソコンを与える上でしっかりルールを決める事、そして、ルールを守れない場合は、使わせないと言う事ははっきりと示し、守らせる力を保護者が持っていなければならない。そこには普段からの親子関係もしっかり反映されるので、要注意である。我々支援者は親子関係を見据えて、保護者が何をすべきか考えねばならない。親子関係が悪いのに、ゲームのことでさらに揉めさせてしまうわけにもいかないが、関係を維持したいからと子どもの言いなりになってしまう保護者には、心を鬼にしてもらわなければならないだろう。

子どもの問題だけではなく、保護者側にもゲームやパソコンの問題はある。

乳幼児検診場面で保健師が見かけるのは、携帯電話に夢中で、子どもが何をしているか全く見ていない保護者。メールを打ったり読んだり、或いはゲームをしていたりする。また、子どものお守りにスマートフォンを与えて遊ばせている保護者も見かける。幼児がスマートフォンの画面をサクサクと操作して、自分の好きな画像やゲームを出して楽しんでいる様子を見て、「こういう機械の操作は簡単に覚えちゃうんです〜♪」と嬉しそうに語る。妊婦健診でもおなかの子に携帯電話等から音楽を聞かせている姿もある。

赤ちゃんに授乳しながら、母親がテレビや携帯をいじって居れば、赤ちゃんが母親の顔を一生懸命見つめていても気づかない。何か声を出して、まるで語りかけるような様子を見せても気づかない。これが繰り返されれば、赤ちゃんは母親の顔を見たり、母親に向かって声を出すという行動を控えてしまうだろう。

また、1歳半くらいの子どもたちは、とても興味が広がり、行動力が高まるから、保護者が携帯メールやテレビを見ていたり、ゲームをしていると邪魔をするだろう。そうすると保護者は怒鳴ったり酷い時は叩いたりする。子どもはじっとしていることを強要され、動き回れば罰を与えられ、じっとするためにDVD 漬けにされる場合もある。こうした子どもを外遊びに連れて行くと、のびのびと遊び、帰りがたがらなくなる。そこでまた保護者から詰られる。この繰り返しで、子どもは外遊びも積極的に行かなくなるだろうし、というより、保護者が連れ出さなくなり、結果として更にゲームやDVD 漬けになって行く。

こうして幼少期からスマートフォンやパソコンで子ども用のゲームに慣れ親しんでいる子どもが作られている。パソコンゲームも幼児期の子どもの知育ゲームなるものさえ作られている時代である。保護者はこれ幸いとそういうものを買い与える。子どもの“知育”と言う名のもと、堂々とパソコンやゲームにのめりこませているのである。

小学校ではパソコンの授業があるので、パソコンに慣らしておこうという保護者の思いもあるだろうし、保護者が使っているので当然のことのように子どもに使わせている例もある。しかし、パソコン画面に見入っている時間が長ければ、目にも身体にも良いわけがない。最近は目を保護するために画面にフィルターを付けている人もいるようだ。

筆者が子どものころ、テレビ画面が目が悪いからと画面に緑色のプラスチック製のフィルター板を付けていたのを思い出す。効果があったのか無かったのか分からないが、まあ、その時代のものよりは効果が実証されているのだろう。

フィルターを付けてまでも、パソコンを見させたいと思うことが本当に子どもたちのためになるのだろうか？視力の問題だけではなく、人と目を合わせて話すことへの不安も生む。画面ばかり見ている子どもにとって、幾ら画面が実物に近かったり、或いは実写であっても、生身の人間とは違う。

ニンテンドーDS やこうしたパソコンゲームを幼少期から使っていれば、小学校に入るころにはゲーム中毒になっている子も見かける。背中が丸まり、顎が前に出た姿勢の子どもたち。ゲームはリセットできるが、現実の行動はリセットできないことに苛立ち、誰かのせいする様子も見られる。コミュニケーションが苦手で、

同年代との関係性が育たないため、猶更ゲームにのめりこむ。悪循環である。

パソコンやゲーム、テレビの弊害はまだまだある。

テレビよりはパソコンの方がやり取りできると思うが、所詮プログラムされたもので、子どもの自由な発想や創造力を育てることができるのか疑問に思う。様々な学者がプログラムを考えているのだろうが、発見や発展の元になっている発想は、もっと奇抜で自由な物で、プログラムされたものから生まれるものではないと思うのだ。

テレビがデジタル化されたお蔭で、テレビの台数が減った家庭もあるようだが、ゲーム用やビデオ用に別のテレビがある家庭も多いし、子ども用と大人用と分けている家庭も多い。そうなると、昔のように、テレビ番組一つで揉めることがない。どうやって上手く自分が見たいものを見られるようにするかを画策することは、例え兄弟間の事といえども、頭を使う。相手の気持ちを理解し、言葉巧みに自分の思い通りの話にもっていかねばならない。とても高いスキルである。そうしたスキルを身に着けられない状況にあるのだ。

父親が帰って来れば誰もが黙ってテレビ番組の選択権を父親に委ね、小さな事とは言え一家の主と言う意識が自然にできていた時代とは異なり、近頃では、むしろ父親が別の部屋に追いやられているケースが多いくらいである。

テレビをみたり、ゲームをする時に、兄弟がいれば必然的に取り合いと言う揉め事が起こるが、これは前述のように折衝スキルを身に付ける訓練になる。しかし、揉め事を嫌う保護者は、兄弟が揉めずに済むようにとそれぞれが別々のもので遊べるようにしてしまう。DS は、保護者も含め各自1台持っているという家族も多い。

ただでさえ最近の世の中は、さほどコミュニケーションスキルが無くても、生活に支障が無い事が多いのだから、せめて幼少期から、テレビ番組の取り合いで喧嘩になるとか、おかつの取り合いで揉めるとかあっても良いのではと思うのだが、そうはいかないようだ。

更に、兄弟を公平に扱うと言う弊害が、兄が兄らしく扱われないという現象をも生んでいる。弟や妹が兄の名を呼び捨てにしているとしても平気なだけでなく、物も公平に与えられる。これでは揉めるはずもない。(あまりにも弟や妹が兄や姉を馬鹿にしている場合に、筆者は保護者に、「ご飯をよそう時には、長子からとか、兄と弟でおかつの量に差をつけるなど、兄弟間の差をあえてつけてください。」とお願いすることがある。もちろん反対に「兄のくせに」と長子であることを言いすぎてつぶす事例もあるが・・・)

そして、揉めないことを善しとされると、揉めることにイライラする保護者が増える。

子どもは揉めるのが大事だと思っているのは筆者だけか？揉めたり喧嘩したりしても、仲直りが出来るのだと言う事をしっかり小さいうちに学んでいけば、思い通りにならないことに腹を立て、嫌な奴、邪魔な奴は排斥し、消してしまえと言うような、ゲーム感覚の問題行動、いじめや殺人が起こる確率は減るのではと思うのである。

さらに、子どもたちが視覚優位で、聴覚による認知力が比較的落ちているような気がするが、これもメディアの発達に伴う弊害ではないだろうか？

近年、ラジオを聴く人が減った。ラジオは想像力を膨らませる事が出来る。車ではラジオやMD・CDが普通だろうが、テレビ機能も備えたナビが搭載され、運転者はともかく、同乗者はテレビを楽しむこともできるようになっている。

本も、IPADなどで、読めるようになっているので少しは本好きを増やせるのかもしれないが、子どもたちに聞くと、本と言えば漫画と言う子も少なくない。学校では読書タイムを設けて、子どもたちに読書をさせているし、読み聞かせなども積極的に取り入れている。こういう活動は子どもたちの情操教育にはとても効果があるだろう。文章から、場面を想像し、展開を自分の頭で再現していくこと、その時子どもは脳の様々な部位を使っている。視覚的に与えられるばかりの、テレビ情報やネット情報とは全く違うのだ。

また、テレビ報道も気になる。教師の権威を失墜させたのも、政治に対する信頼を無くさせたのも、将来に対する夢や希望を持たせにくくしているのも、テレビのせいと言っても過言ではないと思う。

一人の教師が何か問題を起こせば、朝から晩まで教師の問題を繰り返し報道し、まるで教師全体が悪いかのような錯覚を覚えさせる。犯罪にしても、自殺報道にしても、事細かに報道し、大人だけではなく、子どもたちも見ってしまうと言う事を考慮していない。いじめ自殺があれば、子どもたちに平気でマイクを向ける。政治家は、国会答弁で平然と野次を飛ばす。学校教育では、「人が話しているときは静かに聴きましょう」と教えているのにである。大人の政治家が人の話を聴かず、批難、罵倒する姿をテレビで見せていて、子どもたちによい教育が出来るのか？

大人の世界と子どもの世界の境界が曖昧な中で、テレビ報道やネット情報は、嘘も本当も糺交ぜに、これでもかと言うほどしつこく、声を大にして放送している。子どもたちの現実検討識にどれだけ影響するか分らない。正しいものを正しいと、善悪の区別を覚える時期に、わけのわからない報道に毒されて、善悪の判断さえ曖昧になってしまっている。

バラエティーなどで目にするいじめの様なショーも、面白おかしく報道されていれば、子どもたちは自分たちも楽しそうだからやってみようとなっても仕方がない。その結果どれだけ友達が傷つくかには思い至れないだろう。テレビでは堂々と放送され、誰もが面白がっているのだから。

報道統制されるような世界になってほしいと言う事ではないが、もう少し、報道する側が子どもへの影響を考えて、報道内容に対し、18禁のように、年齢制限を設けても良いのではないだろうか？そして、保護者がそれを管理監督出来るようにしなければいけないのではないだろうか？電波を止める事が出来ない以上難しいことは分かるが、認識装置がこれだけ発展している現代なら、子どもの顔認識、登録内容などによってみられるテレビやパソコン操作など、制限されるように作る事が出来るのではと思う。

こうした、大人の情報や娯楽に、無防備にさらされている子どもたち。本来なら、思春期に少しずつ、大人の世界に気付き、ずるさや悪さを知るべきなのに、幼児期から大人の世界の出来事に巻き込まれている。これでは、子どもたちが「大人になりたい」と思うはずがない。どれだけ子どもの世界に、大人の世界を入れ込むのか？

以前こんなことがあった。小学校低学年の男児が女兒に対し性的ないたずらをした。単なる興味本位とするには問題があった。どう考えても、加害児童には今の時期に得なくて良い情報が入っていたとしか思えないのである。

「子ども部屋にフィルタリングを掛けずにパソコンを置くことは、子ども部屋に20人のやくざと5万冊のエロ本を放り込むこと」とおっしゃった方がいらした。

子どもだけが使うパソコンにはフィルターを掛けている家が殆どだとは思いますが、大人用と子供用を分けているから安心とは言えない。子どもたちはロックを案外簡単に外している。暗証を覚えられないからと、誕生日にしたり、書き留めておいたりする家が多いからである。

ロック外しで思い出したが、こんな事件もあった。小学校高学年の女兒が、父親の携帯のロックを外し、浮気の証拠となるメールや、卑猥な写真を見しまったのである。この子どもはショックのあまり、父親にもすごい嫌悪感を抱いた。当然の事だろう。子どもには見られないと思っていたのだろうが、甘いのである。

このように、子どもたちの社会には、ネットやPCがすっかり入り込んでいる。

ニコニコ動画など、子どもたちに人気のサイトを我々大人は見つチェックしているだろうか？パソコンのオンラインゲームをチェックしているだろうか？子どもたちがどんなものを見ているか、確認しているだろうか？

携帯サイトは、学校裏サイトや中傷メール、チェーンメールなど等、問題だらけである。最近でこそ、ネットパトロールなどが盛んになってきているが、ネットを使った誹謗中傷はあつという間に広がり、酷い目にあつた子どもたちも多々いた。

中学生くらいになると、携帯ネットで知り合った者同士が付き合いを始めることもある。その中で、互いの性器を写メ（カメラ付き携帯電話で撮影した画像を添付したメール）で送りあつたりする。保護者は、そんな写真を撮っていることなど考えもしない。

携帯サイトやPCサイトの危険性についてのDVDも作られ、子ども達が学ぶ機会をあえて設けている学校もあるが、後手に回っているので、この効果が出るには、まだ時間がかかるだろう。

与えられる膨大な情報から、取捨選択して必要かつ有益な情報を得るための教育も大事だが、それ以前に、子どもの場合は保護者が規制をかける必要があると思っている。休みの日は一日20時間近くもゲームをしている子から、ゲームを取り上げ、違う遊びや会話、読書などを楽しむようにしたところ、キレやすさが改善され、穏やかになった子供を何人も見ている。

人によっては、ネットやゲームで他人とつながっている場合は、そこが唯一の外界との接点であるから、切らないようにという人もいる。確かにそういう見方はあるだろうが、筆者としては大人がコントロールできない状態で与えておくのは

反対である。中高生ともなれば大人のコントロールは及ばなくなるので、小さいうちが大事だろう。

ゲーム代もネット代も、保護者が出しているのなら、それを切る権利は当然保護者にあるが、切れない人のなんと多いことか。

では、今、我々支援者は一体何をすればよいのか？

子どもたちには無限の想像力・創造力がある。玩具は殆どいらない。子ども達は、身体を使い、言葉を使い、目の前にあるものを使い、人を使って、様々な遊びを展開していくことができる。我々はそれを見守ったり、相手をしてあげるだけでよいと保護者に伝えよう。

また、最近の子どもの絵が稚拙なことから、もっともっと絵を描かせることも必要だと思う。その際、自由に描かせることが大切である。テレビも、ゲームも、玩具も減らし、保護者や兄弟、友達など、生身の人と向き合っ、一緒に遊びを創っていけるよう、助言していくべきではないか。

子ども部屋にテレビやパソコン、ゲームなどを置かない、食事の時はテレビを消す、つけっぱなしはやめる等、我々支援者が一生懸命伝えても、「食事中父親がテレビを見るのでそれは無理」という家もある。保護者が正しい見本を見せることで、子どもは正しい行動を学ぶ。父親も食事の時だけは、テレビを我慢すべきだろう。

保護者がゲームばかりしているという家もある。テレビばかり見ている保護者もいる。子どもたちの行動修正ばかり考える前に今一度大人の行動を見直さねばならない。それが我々支援者の仕事だと思う。

携帯ゲーム、パソコンゲームといったゲームの問題、ネットやテレビその他による情報の扱いの問題など、子どもを取り巻くメディアの問題は大きい。最近メディア・リテラシーという言葉が良く聞かれるようになった。メディアは使い方、毒にも薬にもなるのである。子どもたちのために、大人である保護者がメディアを管理できるよう、支援者として見守り、助言して行かねばならない。

かつてパスカルは「人間は考える葦である」と言った。人間とは孤独で弱い生き物だが、考える事が出来ることは偉大であり、尊厳があるという意味とされている。それなのに、「考えること」が苦手になり、与えられる情報のみで防御し、多すぎる情報に振り回され、臨機応変さを失いつつある人たちの中で、そして更に溢れる情報の中で育つ子どもたちを、今のうちに何とかしないと、この国に未来はないのではとさえ思うのである。

2012年11月から2013年1月までの活動報告

月日	テーマ	行事名・主催者等	担当
11月2日	子どもとメディア ～向き合い方と取り組み方～	旭川NPOサポートセンター	諏訪
11月18日	子ども達とメディア、その現状と対策。 今、大人は何をすべきか。	第53回 旭川市PTA研究大会	諏訪
11月、知内町・中川町・恵庭市・名寄市で、子育てや子育て支援についての講演を行い、 その中で、子どもとメディアについても伝えた。			中谷
12月1日	子どもの発達とメディア ～リスクから子どもを守る～	佐呂間町PTA連合研究大会	諏訪
12月8日	子どもとメディアのよい関係 ～大人のできること、すべきこと～	蘭越町青少年健全育成大会 蘭越町PTA連合研究大会	中谷
12月11日	子どもたちと電子メディア ～乳幼児からのメディア対策～	オトナのための家庭教育講座 旭川市教育委員会	諏訪
12月13日	子どもとメディアのよい関係 ～大人のできること、すべきこと～	札幌市子育て支援関係者 研修会	中谷
12月20日	子どもとメディアのよい関係 ～大人のできること、すべきこと～	札幌市こども学舎 幼児文化講演	中谷
2013年 1月18日	子どもとメディアのよい関係 ～大人のできること、すべきこと～	千歳市かうんせりんぐるうむか かし(子育て支援者の研修会)	中谷
1月26日	子どもとメディアのよい関係 ～大人のできること、すべきこと～	共和町 幼児センター土曜参観日講演	中谷

【活動報告 佐呂間町：諏訪】

12月1日に開催されました、平成24年度佐呂間町PTA連合会研究大会に招かれ、「子どもの発達とメディア」～リスクから子どもを守る～という題で講演させていただきました。

とてもよく晴れて気持ちのいい日でした。日曜日にもかかわらず120人を超える方々が参加してくださり、子どもとメディアへの意識や興味の高さを感じました。

今回の講演に先立ちまして、関係者の方々のご協力を得て保育所、支援センター、3つの小学校（3年生以上の生徒と保護者）、中学校（生徒と保護者）でアンケートをお願いして、343人の保護者の方と215人の生徒さん達から回答をいただくことができました。

これまでのアンケートとは違い、同時期に乳幼児から中学生までのメディアとの関わりを縦断的に見ることができた貴重なデータとなりました。90分という限られた時間の中で、あれもこれも聴いて欲しい、見ていただきたいといういつもの悪い癖がでてしまい、早口になってしまったことを今回も反省しています。

今回のアンケートで一番印象的だったのは、小学生に「家の人として楽しいこと」への回答です。子ども達は、家族とゲームをしたりTVを観ることよりも、一緒に出かける、遊ぶ、ご飯を食べる、話しをするといったごくごく当たり前のことが楽しいと答えています。

私達大人は、子ども達は何を親に求めているのか、大人は子どものために何をしなければいけないのかという基本に立ち返って、あるべき姿について考えなければいけないのではないのでしょうか。

今回、準備期間から講演会終了後までを通じて、佐呂間町がメディア対策に熱心に取り組んでいる様子が伝わってきました。私にとって道東エリアでの講演は初めてでしたが、とても心強く感じるとともに、このような動きが同エリアでもっともっと広がって欲しいと思いました。

【佐呂間町での講演アンケートより一部抜粋】

今までこういった話を聴く機会がなかったのでとても為になりました。 子どもに対しゲームの約束を決めていなかったので決めたいと思います。
メディアに対しては便利な点ばかり意識してリスクについては深く考えたことがなかったのでとても勉強になりました。自分自身が一日中テレビづけの毎日なので自分から気を付けていきたいと思います。
学校でぜひ全校児童の親にもぜひ聞かせてあげたいと思う。 すばらしい講演だと思いました。
日曜なのでゲーム好きのだんなに講演を聴いてもらって良かったです。 我が家は旦那の親と同居なのでテレビ対策は無理です。 旦那と旦那の両親がメディア漬けのため子どもより対大人の内容も聞きたかった。
タイムリーなお話でとても勉強になりました。豊富な資料には裏付けがあり説得力のある主張でした。今は、便利になりすぎてしまいましたね。保護者、子どもへの教育もちろんですが企業側ももう少し論理的な姿勢になって欲しいと思いました。お金儲けだけで商品売るのはどうかと思いました。
子供と一緒に過ごせる時間は限られている。長いように思えて実は短い。 一緒に過ごせることに感謝して大事に過ごそうとあらためて思いました。 「ノーメディアデー」今度取り組んでみようと思いました。この講演を聴けて良かった。
子供むけに今回の内容を話していただくことも必要と思います。 中高生は子供本人がしっかり理解することも大切。
自分が子供のころ携帯電話を持った経験がないので子供に持たせるのが不安でした。親がきちんとした知識を持たないとならないと強く感じました。
インターネットを含めたメディアを利用することに対して親と子供には意識の差があることが分かりました。家族内での話し合いで互いの情報を交換していくことがとても大事であることを理解できて良かったです。
講演を聴いて子供のメディア依存は我々大人が子育てを放棄していることに他ならないと思いました。小1中1の子供がいますが、ゲームは我が家にはありません。 クラスの子供には驚かれるようです。テレビも視聴時間や見る番組を決めて約束のもとに見せています。家族が一つの部屋で顔が見える距離で会話をしたり、一緒に何かをする時間は、たとえ短くても大切にしていきたいと思いました。
メディアが子供に与える影響等勉強になりました。 携帯電話、スマホ、PC等生活の中では不可欠です。今後も益々その傾向は強まると考えられます。我々大人がメディアの接し方を考え、子供たちに正しい使い方を教えていかなければならないと強く思います。

【11月から1月までの活動で感じたこと：中谷】

乳児から高校生までの子どもの健康や発達に関わっている方々が、子どもにとってのメディアのリスクを強く感じていて危機感を持っていらっしゃるのだなと感じました。

今号の情報誌で「メディアの問題」と題して日頃接している親子さんからみえたメディアのリスクを書いて下さった河原先生。先生は、普段のスクールカウンセラーの仕事の他に、ボランティアで「かうんせりんぐる一むかかし」を主宰され、千歳市の子育て支援者のネットワークづくりと勉強会を企画されています。

12月の札幌市の子育て支援者の研修会では、70名以上の方が熱心に話を聞いて下さり、質問や感想でも、日々感じている子どもの発達に与える影響についての強い懸念を発言されていました。何より驚いたのが、「NPO子どもとメディア」で作成し発行している各種の小冊子があるのですが、札幌市の職員さんがびっくりするほどたくさん購入されたのです。「小冊子に書かれていることを参考に親御さんに伝えていきたい！」と力強く声をかけてくれました。感激しました。

私は、日々新しい端末機が登場し人々の日常に入り込んでいる電子映像メディアの圧倒的な存在に、「こんな活動をしてただの時代錯誤か・・・」とふてくされてしまいたい時もあるような弱い人間なのですが、子どもたちの健康と発達を支える現場のみなさんが強い危機感を持っていることを知って力をいただきました。子どもの発達について学んだ人や実践者が伝えていくしかないですよ。がんばりましょうー！

子どもとメディア北海道会員大募集！！

★「子どもとメディア北海道」の事業年度は、7月始まりで6月締めになっています。そのため、会員の方に年会費を払っていただくのは、4月の情報誌(その年度の最終号)が発行された後から新年度の情報誌が発行される7月までの間となります。

わかりやすく書きますと、5月と6月に、新年度のお申し込みと会費をいただきたくお願いいたします。その年度の最終号(4月発行予定)では、新年度の会員申込のお願いを改めてさせていただきますので、その後にお手続きくださいますようお願いいたします。

★ 事務局のミスで申し訳ありません。同封いたしました平成23年度の収支報告書では、会計年度を平成23年4月～平成24年3月までとしています。事業年度と会計年度がずれていて不都合があるため、平成24年度の会計報告からは、平成24年4月～平成25年6月までとさせていただきます、7月号で報告いたします。

★ 「子どもとメディア北海道」の親団体である「NPO子どもとメディア」では、各種の小冊子やDVD等を販売しています。この2年半、少しずつですが講演会をさせていただく中で、小冊子を自治体として購入して下さる例も出てきました。また、本会員さんが、まとめて何冊か購入して下さり、地元で啓発活動に役立ててくれている例もあります。

この小冊子等を会員のみなさまにもご活用いただいて、それぞれの職場や地域でお役立て頂けるよう、今号に「子どもとメディア発行物のご案内」を同封しました。ご自身で「NPO子どもとメディア」に注文されてもよろしいです。ただその場合、送料がかかってしまいます。

諏訪と中谷の方で、何種類かまとめ買いをしております。また、DVDもいくつか購入しています。近くの方でしたら手渡しができたり、NPOからの送料よりは安くお送りできたり、DVDの貸出しも可能ですので、まずは事務局の方にお問い合わせくださいませ。

市町村の健診や新生児訪問で小冊子が配布されたり、園や学校の保護者向けにDVDを観てもらいながら研修をするようになってほしいですね。

会員さんのお仕事や、ご自身の子育てを通して気づく「子どもとメディア」について、情報誌で取り上げていきたいので、ご協力下さいませ。

子どもとメディア北海道 ホームページアドレス

<http://childmediahk.web.fc2.com/>

事務局(中谷 通恵 なかや みちえ)

〒059-0908 白老郡白老町緑丘1丁目3-34

TEL/FAX 0144-82-2685

メールアドレス michie-n@plum.plala.or.jp